

システム研究グループ発表論文一覧 2007年(平成19年)

2007年(平成19年)原著論文

	タイトル	研究者	掲載先
1	Economic Evaluation of the Geological Storage of CO ₂ Considering the Scale of Economy	K. Akimoto, M. Takagi T. Tomoda	International Journal of Greenhouse Gas Control, Volume 1, No. 2, Pages 271-279 (April 2007)
2	Public Perceptions on the Acceptance of Geological Storage of Carbon Dioxide and Information Influencing the Acceptance	K. Tokushige, K. Akimoto T. Tomoda	International Journal of Greenhouse Gas Control, Volume 1, No. 1, Pages 101-112 (April 2007)
3	Evaluation of Energy Saving and CO ₂ Emission Reduction Technologies in Energy Supply and End-use Sectors Using a Global Energy Model	J. Oda, K. Akimoto F. Sano, T. Homma T. Tomoda	IEEE Transactions of Electrical & Electronic Engineering, Volume 2, No. 1, Pages 72-83 (January 2007)
4	Diffusion of Energy Efficient Technologies and CO ₂ Emission Reductions in Iron and Steel Sector	J. Oda, K. Akimoto F. Sano, T. Tomoda	Energy Economics, Volume 29, No. 4, Pages pp. 599-998 (July 2007)
5	Public Acceptance and Risk-benefit Perception of CO ₂ Geological Storage for Global Warming Mitigation in Japan	K. Tokushige, K. Akimoto T. Tomoda	Mitigation and Adaptation Strategies for Global Change, Vol.12, No.7, 1381-2386, 2007.
6	日本におけるCO ₂ 地中貯留の経済性評価	秋元 圭吾, 高木正人	資源・素材学会 「資源と素材」(in Press)

2007年(平成19年)口頭発表(国内学会)

	タイトル	研究者	発表先
1	温暖化による水資源影響評価	林 礼美, 佐野 史典 秋元 圭吾, 森 俊介 友田 利正	第23回エネルギーシステム・経済・環境コンファレンス(主催:エネルギー・資源学会) 平成19年1月25～26日
2	世界エネルギーシステムによる運輸部門における温暖化対策技術の評価	佐野 史典, 秋元 圭吾 小田 潤一郎, 友田 利正	第23回エネルギーシステム・経済・環境コンファレンス(主催:エネルギー・資源学会) 平成19年1月25～26日
3	アジア太平洋パートナーシップ枠組下での電力・鉄鋼・セメント部門の技術選択とCO ₂ 削減効果	小田 潤一郎, 秋元 圭吾 佐野 史典, 友田 利正	第23回エネルギーシステム・経済・環境コンファレンス(主催:エネルギー・資源学会) 平成19年1月25～26日
4	生産・貿易構造の変化を考慮した温暖化中期緩和策評価	本間 隆嗣, 森 俊介 秋元 圭吾, 室田 泰弘 友田 利正	第23回エネルギーシステム・経済・環境コンファレンス(主催:エネルギー・資源学会) 平成19年1月25～26日
5	自動車の燃費改善によるCO ₂ 排出削減効果の評価	佐野 史典, 秋元 圭吾 小田 潤一郎, 友田 利正	第26回エネルギー・資源学会研究発表会(主催:エネルギー・資源学会) 平成19年6月13～14日
6	アジア太平洋パートナーシップに関連した枠組みと鉄鋼業の温暖化対策技術の評価	小田 潤一郎, 秋元 圭吾 佐野 史典, 友田 利正	第26回エネルギー・資源学会研究発表会(主催:エネルギー・資源学会) 平成19年6月13～14日
7	望ましい濃度安定化レベル - 定量・定性の両側面を専門家はどうか判断するか -	小田 潤一郎, 秋元 圭吾, 林 礼美, 本間 隆嗣, 佐野 史典 友田 利正, 森 俊介	日本リスク研究学会第20回研究発表会(主催:日本リスク研究学会) 平成19年11月17～18日

2007年(平成19年)口頭発表(国際学会)

	タイトル	研究者	発表先
1	Sectoral economic impacts of CO ₂ mitigation policies under different levels of stabilization targets:A study with the hybrid model DEARS	T. Homma, K. Akimoto T. Tomoda, S. Mori Y. Murota	10th Annual Conference on Global Economic Analysis (GTAP2007 Conference), 7-9, June, 2007
2	CO ₂ Emission Reduction Effect and Cost of Diffusion of Energy Efficient Technologies in Transport Sector	F. Sano, K. Akimoto J. Oda, T. Tomoda	International Energy Workshop 2007, 25-27, June, 2007

2007年(平成19年)出版物等その他発表

	タイトル	研究者	掲載先
1	地球温暖化の影響および緩和・適応策とその提言	秋元 圭吾	(社)地盤工学会 「土と基礎」
2	抑制策費用も考慮を - 全体合意、最優先に	秋元 圭吾	日本経済新聞 経済教室 2007年6月

化学研究グループ発表論文一覧 2007年(平成19年)

2007年(平成19年)原著論文

	タイトル	研究者	掲載先
1	PAMAN Dendrimer Composite Membrane for CO ₂ separation: Formation of a Chitosan Gutter Layer	T.Kouketsu, S.Duan, T.Kai, S.Kazama, K.Yamada	Journal of MEMBRANE SCIENCE 287 51-59 (2007)
2	Preparation and CO ₂ separation properties of amine-modified mesoporous silica membranes	Y.Sakamoto, K.Nagata, K.Yogo, K.Yamada	Microporous and Mesoporous Materials 101 303-311(2007)
3	Experimental Investigation on Diesel PM Removal Using Uneven DBD Reactors	S.Yao, K.Madokoro, C.Fushimi, Y.Fujioka	AIChE JOURNAL VOL.53, No.7 1891-1897 (2007)
4	Stability of Gel-supported Facilitated Transport Membrane for Carbon Dioxide Separation from Model Flue Gas	K.Okabe, N.Matsumiya, H.Mano	Separation and Purification Technology 57 242-249 (2007)

2007年(平成19年)解説/総説文

	タイトル	研究者	掲載先
1	気体分離膜材料	松井誉敏、風間伸吾	シーエムシー出版 「気体分離膜・透過膜・バリア膜の最新技術」 60-70 (2007)
2	二酸化炭素分離膜	風間伸吾、松井誉敏	シーエムシー出版 「気体分離膜・透過膜・バリア膜の最新技術」 291-300 (2007)
3	水素を含有する混合ガスから二酸化炭素を選択的に分離するデンドリマー膜の開発	風間伸吾	燃料電池 Vol.6 (4) 105-109 (2007)
4	気候変動問題対策としてのCCSとCO ₂ 分離回収技術の開発動向	藤岡祐一	九州環境管理協会会報 「環境管理」 Vol.36 16-23 (2007)
5	二酸化炭素分離回収技術の現状と課題	藤岡祐一	電気協会報 7月号 No.992 35-39 (2007)
6	CO ₂ 回収・貯留について	藤岡祐一、水野康信、高木正人	火力原子力発電 Vol.58 (9) 26-31 (2007)
7	CO ₂ 分離回収方法	藤岡祐一	化学工学誌 Vol.71 (11) 747-750 (2007)

2007年(平成19年)口頭発表(国内学会)

	タイトル	研究者	発表先
1	サブナノ構造制御材料を用いる革新的なガス分離膜の開発	余語克則	第21回JFCAテクノフェスタ(メルパルク東京) 2007年1月22日
2	CO ₂ 分離回収技術の現状と将来	藤岡祐一	CCSワークショップ2007(けいはんなプラザ) 2007年2月15日
3	化学吸収法におけるCO ₂ 分離回収エネルギーの推算法	後藤和也、清水信吉、小野田正	化学工学会 第72年会(京都大学) 2007年3月19日
4	ディーゼルエンジン排気中の炭素系粒子状物質のプラズマ除去機構	姚水良、伏見千尋、間所和彦、藤岡祐一	化学工学会 第72年会(京都大学) 2007年3月19日
5	デンドリマー複合型中空系膜モジュールのCO ₂ 分離性能	松井誉敏、甲斐照彦、段淑紅、繆織貴之、風間伸吾、藤岡祐一、山田興一	化学工学会 第72年会(京都大学) 2007年3月19日
6	新規デンドリマー膜の開発とCO ₂ 分離特性	甲斐照彦、Firoz Alam Chowdhury、段淑紅、松井誉敏、風間伸吾、藤岡祐一、山田興一	化学工学会 第72年会(京都大学) 2007年3月19日
7	中空系膜コンタクターのCO ₂ 吸収性能に及ぼす膜特性の影響の実験的および理論的検討	真野弘、岡部和弘、中村光穂、藤岡祐一	化学工学会 第72年会(京都大学) 2007年3月19日
8	Pd複合化メソ細孔シリカ薄膜の合成と水素分離特性	坂本謙、永田健祐、余語克則、山田興一	化学工学会 第72年会(京都大学) 2007年3月20日
9	LB法によるPAMAMデンドリマー単分子膜の作製とCO ₂ 分離膜への適用	高島悠司、繆織貴之、松井誉敏、風間伸吾、藤岡祐一	日本化学会 第87春季年会(関西大学) 2007年3月25日

	タイトル	研究者	掲載先
10	メソ細孔シリカ薄膜内Pdナノ粒子の鋳型合成と水素分離特性	坂本謙、永田健祐、余語克則、藤岡祐一	日本化学会 第87春季年会(関西大学) 2007年3月28日
11	メソ細孔シリカ薄膜へのPd複合化とガス透過特性	永田健祐、坂本謙、余語克則、藤岡祐一	日本化学会 第87春季年会(関西大学) 2007年3月28日
12	CO 回収・貯留について	藤岡祐一	火力原子力発電技術協会「エネルギー動向並びに新発電技術に関する講演会」(発明会館ホール) 2007年4月24日
13	ディーゼル排気微粒子のプラズマ除去プロセス評価に関する研究	鈴木健一郎、竹内直美、二瓶好正、間所和彦、伏見千尋、姚水良	第68回分析化学討論会(宇都宮大学) 2007年5月20日
14	木質バイオマスのCCSを考慮した大規模利用技術の検討	藤岡祐一、小玉聡	第16回日本エネルギー学会大会(九州大学) 2007年8月2日
15	有機アミン系CO 化学吸収液の研究	清水信吉、後藤和也	日本機械学会2007年度年次大会(関西大学千里山キャンパス) 2007年9月12日
16	CO 親和性を付与した新規カーボン膜の開発とCO ₂ 分離特性	甲斐照彦、Firoz Alam Chowdhury、風間伸吾、藤岡祐一	化学工学会第39回秋季大会(北海道大学) 2007年9月13日
17	CO 発生量削減を目的とした木質バイオマスの転換	藤岡祐一、小玉聡	化学工学会第39回秋季大会(北海道大学) 2007年9月13日
18	ディーゼルエンジン排気中の炭素系粒子状物質のプラズマ除去に関する影響要因の検討	小玉聡、間所和彦、伏見千尋、山本信、峰智恵子、姚水良、藤岡祐一、(ダイハツ工業)内藤一哉、金允護	化学工学会第39回秋季大会(北海道大学) 2007年9月15日
19	CO 化学吸収プロセスにおける液側物質移動係数の測定と吸収塔の数値解析	後藤和也、岡部弘道、清水信吉、小野田正巳	化学工学会第39回秋季大会(北海道大学) 2007年9月13日
20	ハイパーブランチポリイミド膜の高圧二酸化炭素の透過特性	恩田将樹、兼橋真二、風間伸吾、永井一清	第56回高分子討論会(名古屋工業大学) 2007年9月19日
21	経済的なCO 分離回収技術の実用化にむけて	藤岡祐一	革新的環境技術シンポジウム(ホテル日航大阪) 2007年9月20日
22	O とNO によるPM酸化促進に関する基礎研究	姚水良、峰智恵子、伏見千尋、間所和彦、小玉聡、山本信、藤岡祐一、(ダイハツ工業)金允護、内藤一哉、藤川寛敏、小川孝、丹功、長谷川国生、田中裕久	【自動車技術会】07年秋季大会学術(国立京都国際会館) 2007年10月17日
23	多孔質電極を用いた低温プラズマPM除去システムの開発	間所和彦、姚水良、藤岡祐一、伏見千尋(ダイハツ工業)内藤一哉、金允護、藤川寛敏、小川孝、丹功、長谷川国生、田中裕久	【自動車技術会】07年秋季大会学術(国立京都国際会館) 2007年10月17日
24	CO 回収技術の現状と課題	藤岡祐一	第23回エネルギー学会 関西支部セミナー(大阪科学技術センター) 2007年11月7日
25	Pure Silica CHA/STT型ゼオライトの合成とキャラクターゼーション	魚江康輔、中谷剛尚、余語克則、藤岡祐一	第23回ゼオライト研究発表会(秋田キャッスルホテル) 2007年11月8日
26	ポリアミドアミンデンドリマー膜のCO 分離性能	風間伸吾、段淑紅、Firoz Alam Chowdhury、甲斐照彦、藤岡祐一	膜シンポジウム2007(山口大学) 2007年11月14日

2007年(平成19年)口頭発表(国際学会)

	タイトル	研究者	発表先
1	Recent Development of CO Separation technologies for CCS	Y.Fujioka	Gordon Research Conference, Hydrocarbon Resources, Venture 11 January 2007
2	Development of Molecular Gate Membrane for CO Capture	S.Kazama	CSLF Workshop Paris 27 March 2007
3	Evaluation of Absorption Characteristics of Single Amines and Development of New Amine Blends	K.Goto	10th International CO Capture Network, Lyon 24 May 2007

	タイトル	研究者	発表先
4	A Single Channel Discharge Reactor for the Diagnosis of Dielectric Barrier Discharge Reactors	S.Yao, Y.Fujioka S.Yamamoto, K.Madokoro, C.Fushimi, Y.Fujioka	The 34th IEEE International Conference on Plasma Science, Albuquerque 19 July 2007
5	PAMAM Dendrimer Composite Membrane for CO Separation : Addition of Hyaluronic Acid in Gutter Layer and Application of Novel Hydroxyl PAMAM Dendrimer	S.Duan, F.A.Chowdhury, T.Kai, S.Kazama, Y.Fujioka	4rd Conference of Aseanian Membrane Society, Taipei 16 August 2007
6	Influence of Pulse Voltage Waveforms on Ozone Generation	S.Yao, S.Kodama,	20th Pulsed Power Symposium, Didcot 18 September 2007
7	Development of Innovative Gas Separation Membranes through Sub-Nanoscale Materials Control-Development of Novel Carbon Membranes	T.Kai, S.Kazama, Y.Fujioka	GCEP Research Symposium, Palo Alto 3 October 2007
8	Development of Innovative Gas Separation Membranes through Sub-Nanoscale Materials Control-Inorganic CO separation membranes-	K.Uoe, M.Miyamoto, N.Yamamoto, K.Yogo, Y.Fujioka	GCEP Research Symposium, Palo Alto 3 October 2007
9	Development of Innovative Gas Separation Membranes Through Sub-Nanoscale Materials Control	Y.Fujioka	GCEP Research Symposium, Palo Alto 3 October 2007
10	CO Molecular Gate Membrane Challenge to CO Capture from Pressurized Gas Stream	S.Kazama, T.Kai, I.Taniguchi, S.Duan, F.A.Chowdhury, Y.Fujioka	4th Trondheim Conference on CO capture, Transport and Storage, Trondheim 16 October 2007
11	Separation and recovery of carbon dioxide by a membrane flash process	K.Okabe, H.Mano, Y.Fujioka	4th Trondheim Conference on CO capture, Transport and Storage, Trondheim 16 October 2007
12	A New Uneven Dielectric Barrier Discharge Reactor for Removal of Diesel Particulate Matter	S.Kodama, S.Yao, C.Fushimi, S.Yamamoto, C.mine, Y.Fujioka, K.Madokoro, Y.-H.Kim, K.Naito	2007 AIChE Annual Meeting, Salt Lake 6 November 2007
13	Novel Polymeric Gas Separation Membranes for CO Capture	S.Kazama	International Symposium on Environment, Energy and Materials(KIFEE) Otsu, Japan, 6 December 2007

2007年(平成19年)出版物等その他発表

	タイトル	研究者	掲載/発表先など
1	キャリア輸送膜	真野弘	シーエムシー出版 「気体分離膜・透過膜・バリア膜の最新技術」 2007年4月1日
2	レアメタル対策急ぐ ダイハツ触媒なく排ガス浄化	姚水良	日経産業新聞 (朝刊16面) 2007年4月5日
3	ダイハツと地球環境機構 小型車向け08年度確立 装置1/2に小型化	姚水良	日刊工業新聞 (朝刊4面) 2007年4月9日
4	石炭火力発電 CO 排出ゼロへ開発着々 三菱重工 世界初の除去装置 RITE 高分子膜で分離	風間伸吾	日本経済新聞 (朝刊9面) 2007年5月4日
5	CO の分離方法について	藤岡祐一	石油産業活性化センター 2007年7月25日
6	CO 10%削減への道程 ~高炉各社の挑戦~	小野田正巳	日刊工業新聞 (環境エネルギー13面) 2007年8月9日
7	遠い-6% 京都議定書の約束 揺らぐ産業部門の優位 「乾いた雑巾」説に異論	小野田正巳	朝日新聞 (朝刊 総合4面) 2007年8月16日
8	CO 回収 コスト半減 排ガス分離 地中化処理に活用 地球環境機構 2年メド確立 エコイノベーション最前線 国内最大1500億トン貯留可能 用地確保に課題も	真野弘	日本経済新聞 (朝刊 テクノロジー15面) 2007年8月10日
9	数値解析手法を用いたCO 化学吸収プロセスの研究	後藤和也	化学工学会 粒子流体プロセス部会 「熱物質流体工学セミナー」 2007年9月12日
10	CO 分離する膜 発電所 排ガス RITE 効率化 費用1/3	風間伸吾	日本経済新聞 (朝刊 テクノロジー15面) 2007年11月16日

CO 貯留研究グループ発表論文一覧 2007年(平成19年)

2007年(平成19年)原著論文 [CO 地中貯留プロジェクト関連]

	タイトル	研究者	掲載先
1	Seismic monitoring and modelling of supercritical CO injection into a water-saturated sandstone: interpretation of P-wave velocity data	Ji-Quan Shi, Ziqiu Xue, Sevjet Durucan	International Journal of Greenhouse Gas Control, Vol. 1, No.3, October, 2007
2	Economic Evaluation for the Geological Storage of CO Considering the Scale of Economy	Keigo Akimoto, Masato Takagi, Toshimasa Tomoda	International Journal of Greenhouse Gas Control, Vol.1, No.2, April, 2007
3	日本におけるCO 地中貯留の経済性評価	秋元圭吾、高木正人	資源・素材学会「資源と素材」、印刷中
4	Case study of geochemical reactions at the Nagaoka CO injection site, Japan	Saeko Mito, Ziqiu Xue, Takashi Ohsumi	International Journal of Greenhouse Gas Control, 印刷中
5	Pressure transient analysis of a long-term supercritical CO injection experiment at Nagaoka Japan	Ronald Horne, Ziqiu Xue	Energy Conversion and Management, 査読中
6	Modeling and Analysis of the Pressure Response in the CO Injection Experiment Conducted at Iwanohara, Niigata Prefecture, Japan	Sephen White, Ziqiu Xue, Tetuya Saito	International Journal of Greenhouse Gas Control, 査読中
7	Case Story: Time-Lapse Seismic Crosswell Monitoring of CO injected in an Onshore Sandstone Aquifer	Jespe Spetzler, Ziqiu Xue, Hideki Saito, Dai Nobuoka, Hiroyuki Azuma, Osamu Nishizawa	Geophysical Journal International, 印刷中
8	二酸化炭素地中貯留における地球化学反応特性について - 長岡実証試験サイトの地層水分析例 -	三戸彩絵子、薛自求、大隅多加志	地学雑誌、査読中

2007年(平成19年)解説/総説 [CO 地中貯留プロジェクト関連]

	タイトル	研究者	掲載先
1	二酸化炭素地中貯留と土木技術 - 二酸化炭素地中貯留技術研究開発 -	水野康信	土木施工、2007年3月号
2	二酸化炭素の分離回収・貯留への挑戦	村井重夫、藤岡祐一	電気学会誌、2007年4月号
3	二酸化炭素地中貯留の現状と展望	水野康信	エネルギーレビュー、2007年4月号
4	CO 地中貯留の技術動向について	村井重夫	O H M、2007年5月号
5	脱温暖化社会シナリオ:CO の地中貯留技術	村井重夫	学術の動向、2007年7月号
6	地下深部塩水層(帯水層)への二酸化炭素圧入証試験およびモニタリング	棚瀬大爾	石油学会誌ベトロテック第30巻、2007年9月号
7	Japan's first pilot-scale saline aquifer CO injection experiment	Ziqiu Xue	Greenhouse Issues, Vol. 86, June, 2007
8	Development of CO geological storage technology	Shigeo Murai	Economy, Culture & History JAPAN SPOTLIGHT Bimonthly, September/October, 2007
9	二酸化炭素の回収・貯留(CCS: Carbon Dioxide Capture and Storage)技術の海外における実用化例	伊東明人	エネルギーレビュー、2007年12月号

2007年(平成19年)口頭発表 [CO 地中貯留プロジェクト関連]

	タイトル	研究者	発表先
1	Pilot CO injection into an onshore aquifer in Nagaoka, Japan	Susumu Kimishima	Sour Oil & Gas Advanced Technology 2007, 3rd International Conference, Workshop & Exhibition, incorporation the International CO Forum, April, 2007
2	超臨界CO を間隙流体とした泥質岩の力学特性	西本壮一、木山保、薛自求、熊倉聡、石島洋二、小玉齊明	平成19年度資源素材学会春季大会、2007年3月
3	Evaluation of CO geochemical reactions at an onshore saline aquifer, Nagaoka, Japan	Saeko Mito, Ziqiu Xue, Takashi Ohsumi	European Geosciences Union General Assembly, April, 2007

2007年(平成19年)口頭発表 [CO 地中貯留プロジェクト関連]

	タイトル	研究者	発表先
4	長岡CO 貯留サイトにおける貯留岩の地球化学的反応性の評価	徂徠正夫、三戸彩絵子、大隅多加志	日本地球惑星科学連合2007年大会、2007年5月
5	二酸化炭素地中貯留における坑井間弾性波トモグラフィーによるモニタリング	斎藤秀樹、薛自求、棚瀬大爾	日本地球惑星科学連合2007年大会、2007年5月
6	Experimental study of residual CO2 saturation in the sandstones with different pore structures	Keigo Kitamura, Ziqiu Xue	Sixth annual conference of carbon capture & sequestration, May, 2007
7	CO 地中貯留シミュレーションにおける感度解析	阿部正憲、赤工浩平、山之内芳徳、山本正隆	石油技術協会平成19年度春季講演会、2007年6月
8	Laboratory measurements of resistivity and SP for monitoring of CO storage	Kenji Kubota, Koichi Suzuki, Ziqiu Xue	SEG Conference, November, 2007
10	Japanese CO Storage initiatives and J-Power's R & D activities	Shigetaka Nakanishi	Callide Oxyfuel Project-CO2 Storage Site Selection Workshop, Maech, 2007
11	コアフラッド実験による残留CO 飽和率の評価	上田良、山本正隆、中野正則、高橋孝志、菅沼達也、薛自求	石油技術協会春季講演会、2007年6月
12	Time-lapse CO monitor logging at the first pilot-scale CO injection site in Japan	Ziqiu Xue, Daiji Tanase, Jiro Watanabe	The Challenges in Seismic Rock Physics, June, 2007
13	二酸化炭素地中貯留における石油開発技術の役割	阿部正憲、赤工浩平、山之内芳徳	地球惑星科学連合2007大会 地中温暖化防止セッション、2007年5月
14	CCS(二酸化炭素回収貯留)技術の現状	村井重夫	中部原子力懇談会調査研究委員会エネルギー環境専門部会、2007年6月
15	地球温暖化対策 CO 回収・貯留の実現に向けて	伊東明人	エンジニアリングシンポジウム、2007年10月
16	上総層群梅ヶ瀬層の砂岩を用いた溶解実験 - CO 地中貯留における岩盤の溶解 -	中田英二、伊東由紀	日本地質学会第114年学術大会、2007年9月
17	上総層群梅ヶ瀬層浅部におけるガス移行経路としての断層の役割	田中姿郎、志田原巧、末永弘、中川加明一郎、中田英二、窪田健二	日本地質学会第114年学術大会、2007年9月
18	Assessment of geochemical reactivity of rocks at the Niigata CO -injection test site, Niigata, Japan	Masao Sorai, Yasuko Okuyama, Toshiyuki Tosha, Saeko Mito, Takashi Ohsumi	Water Rock Interaction, July, 2007
19	CCS(二酸化炭素回収貯留)技術の現状	村井重夫	第206回京都化学者クラブ例会、2007年8月
20	Formation-water database on saline aquifers in Japan: toward geochemical modeling in underground sequestration of CO	Y. Okuyama, M. Sasaki, M. Sorai, N. Kaneko, H. Muraoka, N. Yanagisawa, T. Tosha	WRI-12(12th international symposium on water-rock interaction), August, 2007
21	Assessment of geochemical reactivity of rocks at the Nagaoka CO injection test site, Niigata, Japan	M. Sorai, Y. Okuyama, T. Tosha, S. Mito, T. Ohsumi	WRI-12(12th international symposium on water-rock interaction), August, 2007
22	Hot-springs associated with calcareous deposits in Japan, and their implications for future CO underground geological storage	M. Sasaki, Y. Okuyama, M. Sorai, N. Kaneko, N. Yanagisawa	WRI-12(12th international symposium on water-rock interaction), August, 2007
23	二酸化炭素回収・貯留の現状とCDM化の動きについて	村井重夫	大阪CDMネットワークオープンセミナー、2007年8月
24	上総層群浅部におけるガス湧出量計測の試み	中川加明一郎、田中姿郎、末永弘、中田英二、窪田健二、志田原巧	日本応用地質学会平成19年度研究発表会、2007年10月
25	上総層群浅部の断層構造とメタンガス移行の関係	田中姿郎、志田原巧、末永弘、中田英二、中川加明一郎、窪田健二	日本応用地質学会平成19年度研究発表会、2007年10月
26	CO 固定化・削減・有効利用の最新技術 - CO 貯留技術等 -	村井重夫	第51回全国環境衛生大会、2007年10月
27	長岡CO 地中貯留プロジェクトにおけるCO 飽和度の推定について	小西千里、東宏幸、信岡大、薛自求、渡辺二郎	平成19年度物理探査学会秋季大会、2007年10月

2007年(平成19年)口頭発表 [CO 地中貯留プロジェクト関連]

	タイトル	研究者	発表先
28	検層結果を用いたCO 飽和度の推定	東宏幸、小西千里、信岡大、 薛自求、渡辺二郎	平成19年度物理探査学会秋季大会、 2007年10月
29	二酸化炭素地中貯留のポテンシャル	水野康信	平成19年度資源・素材関係学会合同秋季 大会、2007年9月
30	CO 地中貯留におけるトラッピングメカニズム	當舎利行、奥山康子、佐々木宗建、 楠瀬勤一郎	日本機械学会2007年度年次大会、2007年9 月
31	CO 地中貯留技術について	村井重夫	GLOBE Japan 気候変動・違法採掘強会 (第2回)、2007年11月
32	環境・エネルギー分野における施策の評価について	宮川俊彦	日本経団連 科学技術政策の評価に関する 打合せ、2007年12月
33	CO 分離回収貯留技術	村井重夫	火力原子力発電技術協会講演会(名古屋会 場)、2007年12月
34	CO 分離回収貯留技術	水野康信	火力原子力発電技術協会講演会(富山会 場)、2007年12月

2007年(平成19年)出版物等その他発表 [CO 地中貯留プロジェクト関連]

	タイトル	研究者	掲載先
1	CCS研究開発の動向について	水野康信	(財)政策科学研究所トヨタ研究会、 2007年6月
2	Overview of Japan's First Pilot-Scale Saline Aquifer CO Injection Experiment	Ziqi Xue, Hideaki Saito, Jiro Watanabe	Post-Convention Workshop(CO Sequestration Monitoring)SEG 2007, September, 2007
3	CO Saturation and Movement during Post-Injection Period, Nagaoka Project	Tsukasa Yoshimura, Koji Kano, Jiro Watanabe, Hiroyuki Azuma, Ziqi Xue, Saeko Mito	4th Monitoring Network Meeting of IEA, November, 2007
4	Monitoring Concept for the R&D CCS in Japan	Daiji Tanase, Koji Kano, Hironori Furukawa	4th Monitoring Network Meeting of IEA, November, 2007

2007年(平成19年)原著論文 [海洋隔離プロジェクト]

	タイトル	研究者	掲載先
1	CO 海洋隔離の技術開発の現状	佐藤徹	化学工学会誌
2	CO 海洋隔離の社会受容性に関する研究 -アンケート調査とリスクコミュニケーションの試行-	上城功紘、佐藤徹	船舶海洋工学会論文集 第4号 2007.6
3	CO tolerance of juveniles of three marine invertebrates, Sepia lycidas, Sepioteuthis lessoniana, and Marsupenaeus japonicus	Takashi Kikkawa, Yuji Watanabe, Youchi Katayama, Jun Kita, and Atsushi Ishimatsu	Plankton and Benthos Research 投稿中
4	A numerical study with an eddy-resolving model to evaluate chronic impacts in CO ocean sequestration	Yoshio Masuda, Yasuhiro Yoshikazu Sasai, and Michimasa Magi	International Journal of Greenhouse Gas Control 2007

2007年(平成19年)口頭発表 [海洋隔離プロジェクト]

	タイトル	研究者	発表先
1	西部北太平洋におけるクロロフィルaと生物ポンプの十年スケール変動について	石田洋、石坂丞二、嶋本晶文ほか	日本海洋学会 H19.3 (東京海洋大学品川 キャンパス)
2	CO Ocean Sequestration by Dissolution Method-Biological Impact Modelling and Trial of Risk Communication	Toru Sato	International Symposium on CO Storage 2007.3
3	海洋中における液体CO 挙動のナチュラルアナログ	下島公紀	日本地球惑星科学連合会2007
4	Moving Ship方式によるCO 隔離技術	村井重夫、間木道政	海洋理工学会 平成19年度春季大会

2007年(平成19年)口頭発表 [海洋隔離プロジェクト]

	タイトル	研究者	発表先
5	隔離CO は西部北太平洋にどのように広がるか	増田良帆、山中康裕	海洋理工学会 平成19年度春季大会
6	CO 海洋隔離による生物への影響	石松惇、林正裕、吉川貴志、 薛自求、喜田潤、渡辺雄二	海洋理工学会 平成19年度春季大会
7	Time Domain VIV Analysis of Inclined Towed Pipe Based on Lookup Table of VIV Hydrodynamic Force	Hideyuki Suzuki, Junichi Minamiura, Masahiko Ozaki	Fifth Conference on Bluff Body Wakes and Vortex-Induced Vibrations ,2007,Brasil
8	CO 大量隔離	染矢聡	東京大学海洋アライアンス 第2回シンポジウム
9	マリアナ海域北西栄福海山における液体CO 挙動のナチュラルアナログ	下島公紀、前田義明、間木道政	2007年度日本地球化学会年会
10	CO 貯留のナチュラルアナログとしての海底熱水活動	下島公紀	2007年度日本海洋学会秋季大会
11	Emission of CO from seafloor hydrothermal systems at Mariana Trough	K.Shitasima, and Y.Maeda	2007 AGU Fall Meeting
12	CO 海洋隔離の環境モニタリングに係わる計測技術	下島公紀	電中研 H19年度 研究成果発表会 -火力・環境-
13	二酸化炭素海洋隔離 - 中層溶解技術 -	佐藤徹	シンポジウム「気候変動研究の最前線」 (日本船舶海洋工学会関西支部)

2007年(平成19年)出版物等その他発表 [海洋隔離プロジェクト]

	タイトル	研究者	掲載/発表先など
1	CO 海洋隔離技術 < Moving ship方式の開発 >	尾崎雅彦、喜田潤	The Piping Engineering配管技術(2007.2)
2	CO 海洋隔離の環境影響評価のための観測手法その3	下島公紀	電中研 所内報告書 2007.4
3	ナチュラルアナログによる海洋中の液体CO の挙動観測	下島公紀	電中研 研究年報2007年度版
4	Hydrothermal systems as natural analogue of CCS	K.Shitashima, Y.Maeda, and T.Ohsumi	2008 Ocean Sciences Meeting

微生物研究グループ発表論文一覧 2007年(平成19年)

2007年(平成19年)原著論文

	タイトル	研究者	掲載先
1	Synthesis of <i>Clostridium cellulovorans</i> minicellulosomes by intercellular complementation.	T. Arai, S. Matsuoka, H.-Y. Cho, H. Yukawa, M. Inui, S.-L. Wong and R.H. Doi.	Proc. Natl. Acad. Sci. USA. 104:1456-1460. 2007.
2	Efficient induction of formate hydrogen lyase of aerobically grown <i>Escherichia coli</i> in a three-step biohydrogen production process.	A. Yoshida, T. Nishimura, H. Kawaguchi, M. Inui and H. Yukawa.	Appl. Microbiol. Biotechnol. 74:754-760. 2007.
3	Effect of lignocellulose-derived inhibitors on growth of and ethanol production by growth-arrested <i>Corynebacterium glutamicum</i> R.	S. Sakai, Y. Tsuchida, H. Nakamoto, S. Okino, O. Ichihashi, H. Kawaguchi, T. Watanabe, M. Inui and H. Yukawa.	Appl. Environ. Microbiol. 73:2349-2353. 2007.
4	Random segment deletion based on IS 31831 and Cre/loxP excision system in <i>Corynebacterium glutamicum</i> .	Y. Tsuge, N. Suzuki, M. Inui and H. Yukawa.	Appl. Microbiol. Biotechnol. 74:1333-1341. 2007.
5	Comparative analysis of the <i>Corynebacterium glutamicum</i> group and complete genome sequence of strain R.	H. Yukawa, C.A. Omumasaba, H. Nonaka, P. Kós, N. Okai, N. Suzuki, M. Suda, Y. Tsuge, J. Watanabe, Y. Ikeda, A.A. Vertès and M. Inui.	Microbiology. 153:1042-1058. 2007.
6	Anaerobic growth of <i>Corynebacterium glutamicum</i> using nitrate as a terminal electron acceptor.	T. Nishimura, A.A. Vertès, Y. Shinoda, M. Inui and H. Yukawa.	Appl. Microbiol. Biotechnol. 75:889-897. 2007.
7	Expression of <i>Corynebacterium glutamicum</i> glycolytic genes varies with carbon source and growth phase.	S.O. Han, M. Inui and H. Yukawa.	Microbiology 153:2190-2202. 2007.
8	Transcriptional profiling of <i>Corynebacterium glutamicum</i> metabolism during organic acid production under oxygen deprivation conditions.	M. Inui, M. Suda, S. Okino, H. Nonaka, L.G. Puskás, A.A. and H. Yukawa.	Microbiology 153:2491-2504. 2007.
9	Isolation of a new insertion sequence, IS 13655, and its application to <i>Corynebacterium glutamicum</i> genome mutagenesis.	Y. Tsuge, N. Suzuki, K. Ninomiya, M. Inui and H. Yukawa.	Biosci. Biotechnol. Biochem. 71:1683-1690. 2007.
10	Alternative technologies for biotechnological fuel ethanol manufacturing.	A.A. Vertès, M. Inui and H. Yukawa.	J. Chem. Technol. Biotechnol. 82:693-697. 2007.
11	Transcriptionally regulated <i>adhA</i> gene encodes alcohol dehydrogenase required for ethanol and <i>n</i> -propanol utilization in <i>Corynebacterium glutamicum</i> R.	A. Kotrbava-Kozak, P. Kotrba, M. Inui, J. Sajdok and H. Yukawa.	Appl. Microbiol. Biotechnol. 76:1347-1356. 2007.
12	Synergistic interaction of <i>Clostridium cellulovorans</i> cellulosomal cellulases and HbpA.	S. Matsuoka, H. Yukawa, M. Inui and R.H. Doi.	J. Bacteriol. 189:7190-7194. 2007.
13	Analyses of the acetate-producing pathways in <i>Corynebacterium glutamicum</i> under oxygen-deprived conditions.	K. Yasuda, T. Jojima, M. Suda, S. Okino, M. Inui and H. Yukawa.	Appl. Microbiol. Biotechnol. 77:853-860. 2007.
14	Site-directed integration system using a combination of mutant <i>lox</i> sites for <i>Corynebacterium glutamicum</i> .	N. Suzuki, M. Inui and H. Yukawa.	Appl. Microbiol. Biotechnol. 77:871-878. 2007.
15	Effect of the multiple copies of cohesins on cellulase and hemicellulase activities of <i>Clostridium cellulovorans</i> minicellulosome.	J. Cha, S. Matsuoka, H. Chan, H. Yukawa, M. Inui and R.H. Doi.	J. Microbiol. Biotechnol. 17:1782-1788. 2007.
16	Regulation of the expression of phosphoenolpyruvate: carbohydrate phosphotransferase system (PTS) genes in <i>Corynebacterium glutamicum</i> R.	Y. Tanaka, N. Okai, H. Teramoto, M. Inui and H. Yukawa.	Microbiology 154:264-274. 2008.
17	Engineering of an L-arabinose metabolic pathway in <i>Corynebacterium glutamicum</i> .	H. Kawaguchi, M. Sasaki, A.A. Vertès, M. Inui and H. Yukawa.	Appl. Microbiol. Biotechnol. 77:1053-1062. 2008.
18	DivS, a novel SOS inducible cell-division suppressor in <i>Corynebacterium glutamicum</i> .	H. Ogino, H. Teramoto, M. Inui and H. Yukawa.	Mol. Microbiol. 67:597-608. 2008.
19	Production of isopropanol by metabolically engineered <i>Escherichia coli</i> .	T. Jojima, M. Inui and H. Yukawa.	Appl. Microbiol. Biotechnol. 77:1219-1224. 2008.
20	Expression of <i>Clostridium acetobutylicum</i> butanol synthetic genes in <i>Escherichia coli</i> .	M. Inui, M. Suda, S. Kimura, K. Yasuda, H. Suzuki, H. Toda, S. Yamamoto, S. Okino, N. Suzuki and H. Yukawa.	Appl. Microbiol. Biotechnol. 77:1305-1316. 2008.
21	Technological options for biological fuel ethanol.	A.A. Vertès, M. Inui and H. Yukawa.	J. Mol. Microbiol. Biotechnol. (in press)

	タイトル	研究者	掲載先
22	Transcription of <i>Corynebacterium glutamicum</i> genes involved in tricarboxylic acid cycle and glyoxylate cycle.	S.O. Han, M. Inui and H. Yukawa.	J. Mol. Microbiol. Biotechnol. (in press)
23	Regulation of expression of general components of the phosphoenolpyruvate:carbohydrate phosphotransferase system (PTS) by the global regulator SugR in <i>Corynebacterium glutamicum</i>	Y. Tanaka, H. Teramoto, M. Inui and H. Yukawa.	Appl. Microbiol. Biotechnol. 78:309-318. 2008.
24	Production of D-lactic acid by <i>Corynebacterium glutamicum</i> under oxygen deprivation.	S. Okino, M. Suda, K. Fujikura, M. Inui and H. Yukawa.	Appl. Microbiol. Biotechnol. 78:449-454. 2008.

2007年(平成19年)解説/総説文

	タイトル	研究者	掲載先
1	Quick on the Straw.	沖野祥平、湯川英明	The Japan Journal 3:31. 2007.
2	バイオエタノールの現状と展望	沖野祥平、湯川英明	MATERIAL STAGE 6:62-65. 2007.
3	バイオエタノールの現状と将来	沖野祥平、湯川英明	太陽エネルギー 33:7-11. 2007.
4	エタノール燃料の活路	M. L. ウォルド 湯川英明 監修	日経サイエンス 37:88-97. 2007.
5	バイオリファイナリー:早期実用化に向けて	湯川英明、乾 将行	生物工学会誌 85:177-179. 2007.
6	バイオ燃料の技術動向	湯川英明	OHM 94:43-46. 2007.
7	次世代バイオエタノール生産プロセスの開発	沖野祥平、湯川英明	触媒 49:271-275. 2007.
8	稲わらなど原料にバイオマス燃料生産	酒井伸介、湯川英明	ニューカントリー 54:30-31. 2007.
9	バイオ燃料の最新研究と課題	湯川英明	化学 62:25-28. 2007.
10	ソフトバイオマスからの燃料用エタノール製造の展望	沖野祥平、湯川英明	週刊農林 1992:8-9, 1993:8-9. 2007.
11	稲わらなどを原料にしたバイオエタノール生産技術の開発	湯川英明、酒井伸介	コーゼネレーション 22:38-45. 2007.
12	バイオ燃料は地球温暖化対策の救世主となるか?	湯川英明、酒井伸介	化学と生物 45:805-808. 2007.
13	バイオエタノールの現状と展望	湯川英明	紙バ技協誌 61:1450-1453. 2007.
14	ソフトバイオマスからのバイオ燃料製造	城島 透、湯川英明	農林水産技術研究ジャーナル 31:50-52. 2008.

2007年(平成19年)口頭発表(国内学会)

	タイトル	研究者	発表先
1	RITE Bioprocessについて	湯川英明	国際バイオフェューエル会議2007、2007年2月2日
2	バイオエタノールの量産化 セルロースを原料にした新製法	湯川英明	高分子同友会勉強会、2007年2月19日
3	高密度菌体による水素生成プロセスのためのFHLの効率的誘導	吉田章人、西村 拓、川口秀夫、 乾 将行、湯川英明	日本農芸化学会2007年度(平成19年度)大会、2007年3月24日 - 27日

	タイトル	研究者	発表先
4	コリネ型細菌を用いた混合糖類からのバイオエタノール生産プロセスの構築	酒井伸介、佐々木美穂、須田雅子、沖野祥平、川口秀夫、土田芳樹、乾 将行、湯川英明	日本農芸化学会2007年度(平成19年度)大会、2007年3月24日-27日
5	コリネ型細菌におけるarabinose代謝経路の構築	川口秀夫、沖野祥平、乾 将行、湯川英明	日本農芸化学会2007年度(平成19年度)大会、2007年3月24日-27日
6	コリネ型細菌における人工セルロソームの発現・分泌の試み	沖部奈緒子、稲富健一、塚本 晃、乾 将行、湯川英明	日本農芸化学会2007年度(平成19年度)大会、2007年3月24日-27日
7	コリネ型細菌におけるPTS遺伝子の発現解析	田中裕也、岡井直子、乾 将行、湯川英明	日本農芸化学会2007年度(平成19年度)大会、2007年3月24日-27日
8	SOS応答時におけるコリネ型細菌の細胞分裂阻害機構の解析	荻野英賢、寺本陽彦、乾 将行、湯川英明	日本農芸化学会2007年度(平成19年度)大会、2007年3月24日-27日
9	深度地下微生物生態系による二酸化炭素固定のための基盤技術の開発	大森彬史、稲富健一、乾 将行、湯川英明	日本農芸化学会2007年度(平成19年度)大会、2007年3月24日-27日
10	21世紀の産業革命: バイオリファイナリー	湯川英明	日本化学会第87春季年会、2007年3月26日
11	RITEにおけるバイオ燃料技術開発への取り組み	湯川英明	セルロース学会関東支部ミニシンポジウムセルロース素材の新展開、2007年5月17日
12	バイオエタノールの量産化 - セルロースを原料にした新製法 -	湯川英明	第24回高分子同友会総合講演会、2007年7月24日
13	コリネ型細菌におけるC4-ジカルボン酸輸送体の探索	寺本陽彦、乾 将行、湯川英明	日本生物工学会平成19年度大会、2007年9月25日 - 27日
14	組換えコリネ型細菌によるソフトバイオマス由来混合糖からの有機酸生産	佐々木美穂、城島 透、沖野祥平、乾 将行、湯川英明	日本生物工学会平成19年度大会、2007年9月25日 - 27日
15	セルロース系バイオ燃料製造技術開発	湯川英明	2007年度日本生物工学会大会シンポジウムバイオマス利活用の最新技術、2007年9月27日
16	ソフトバイオマスからのバイオ燃料製造 現状と展望	湯川英明	日本エネルギー学会三部会合同シンポジウム、2007年11月14日

2007年(平成19年)口頭発表(国際学会)

	タイトル	研究者	発表先
1	Ethanol Producing using RITE Bioprocess.	H. Yukawa	The 4th World Congress on Industrial Biotechnology and Bioprocessing, 22 March 2007.
2	Ethanol production from mixed sugars by genetically engineered <i>Corynebacterium glutamicum</i> .	S. Okino, S. Sakai, H. Kawaguchi, M. Sasaki, M. Suda, M. Inui and H. Yukawa.	The 4th World Congress on Industrial Biotechnology and Bioprocessing, 21-24 March 2007.
3	Ethanol production from mixed sugars derived from lignocellulosic biomass by the RITE bioprocess.	H. Yukawa	AIChE Spring National Meeting, 24 April 2007.
4	Improved ethanologenic <i>Corynebacterium glutamicum</i> strains for fuel ethanol production from lignocellulosic biomass.	H. Teramoto, H. Kawaguchi, S. Okino, M. Inui and H. Yukawa.	The 29th Symposium on Biotechnology for Fuels and Chemicals, 29 April-2 May 2007.
5	Ethanol production from lignocellulosic biomass by the RITE bioprocess.	H. Yukawa	BIO 2007 International Convention, 7 May, 2007.
6	Regulation of the expression of phosphoenolpyruvate: Carbohydrate phosphotransferase system (PTS) genes in <i>Corynebacterium glutamicum</i> R.	Y. Tanaka, N. Okai, H. Teramoto, M. Inui and H. Yukawa.	American Society for Microbiology 107th General Meeting, 21-25 May 2007.
7	Identification of a novel SOS inducible cell-division inhibitor in <i>Corynebacterium glutamicum</i> .	H. Ogino, H. Teramoto, M. Inui and H. Yukawa.	American Society for Microbiology 107th General Meeting, 21-25 May 2007.
8	Anaerobic growth of <i>Corynebacterium glutamicum</i> using nitrate as a terminal electron acceptor.	T. Nishimura, A.A. Vertès, Y. Shinoda, M. Inui and H. Yukawa.	American Society for Microbiology 107th General Meeting, 21-25 May 2007.
9	Enhanced biohydrogen production from biomass-derived substrates.	A. Yoshida, M. Inui, and H. Yukawa.	SIM Annual Meeting, 31 July 2007.

	タイトル	研究者	発表先
10	Efficient ethanol production from glucose and xylose mixture using growth-arrested <i>Corynebacteria</i> .	S. Sakai, M. Sasaki, M. Suda, S. Okino, T. Jyojima, Y. Tsuchida, M. Inui and H. Yukawa.	234th ACS National Meeting, 19-23 August 2007.
11	Production of D-lactic acid by the RITE bioprocess using genetically engineered <i>Corynebacterium glutamicum</i> .	S. Okino, M. Suda, M. Inui and H. Yukawa.	234th ACS National Meeting, 19-23 August 2007.
12	Engineering of an L-arabinose metabolic pathway in <i>Corynebacterium glutamicum</i> .	M. Sasaki, H. Kawaguchi, S. Okino, T. Jyojima, M. Inui and H. Yukawa.	234th ACS National Meeting, 19-23 August 2007.
13	Transcriptional profiling of <i>Corynebacterium Glutamicum</i> metabolism during organic acid production under oxygen deprivation conditions.	M. Suda, S. Okino, H. Nonaka, L.G. Puskás, A.A. Vertès, M. Inui and H. Yukawa.	2007 AIChE Annual Meeting, 4-9 November 2007.
14	Analyses and suppression of acetate formation for development of efficient biorefining process by growth-arrested corynebacteria.	K. Yasuda, T. Jyojima, M. Suda, S. Okino, M. Inui and H. Yukawa.	2007 AIChE Annual Meeting, 4-9 November 2007.
15	Ethanol production from mixed sugars derived from lignocellulosic biomass by the "RITE-bioprocess" using corynebacteria	H. Yukawa	2007 Pacific Rim Summit on Industrial Biotechnology and Bioenergy, 14 November 2007.
16	Production of biofuels from soft biomass by the RITE Bioprocess	H. Yukawa	Asia Biofuels Conference & EXPO V, 13 December 2007.

2007年(平成19年)出版物等その他発表

	タイトル	研究者	掲載/発表先ほか
1	Genomes and Genome-Level Engineering of Amino Acid-Producing Bacteria.	H. Yukawa, M. Inui and A.A. Vertès.	Amino Acid Biosynthesis Pathways, Regulation and Metabolic Engineering
2	RITEバイオプロセスによる燃料エタノール製造	湯川英明、酒井伸介	自動車用バイオ燃料技術の最前線
3	コリネ菌・コリネ型細菌における染色体大規模加工技術の開発	鈴木伸昭、乾 将行、湯川英明	微生物機能を活用した革新的生産技術の最前線 ミニマムゲノムファクトリーとシステムバイオロジー
4	バイオマス資源からのコハク酸製造バイオプロセス	湯川英明、沖野祥平	植物由来プラスチックの高機能化とリサイクル技術

植物研究グループ発表論文一覧 2007年(平成19年)

2007年(平成19年)論文発表

	タイトル	研究者	掲載先
1	Histidine kinases plays important roles in the perception and signal transduction of H ₂ O in the cyanobacterium, <i>Synechocystis</i> .	Y. Kanesaki, H. Yamamoto, K. Paithoonrangarid, M. Shoumskaya, I. Suzuki, H. Hayashi, N. Murata	The Plant Journal 49(2) : 313-324
2	Overexpression of Ferredoxin in Tobacco Chloroplasts stimulates Cyclic Electron Flow around Photosystem I (CEF-PSI) and enhances Non-Photochemical Quenching (NPQ) of Chl Fluorescence	H. Yamamoto, C. Miyake	Photosynthesis 2007 Proceedings "Photosynthesis: Energy from the Sun"
3	Relationship between mesophyll conductance to CO ₂ diffusion and contents of aquaporin localized at plasma membrane in tobacco plants grown under drought conditions.	Shin-Ichi Miyazawa, Satomi Yoshimura, Yuki Shinzaki, Masayoshi Maeshima, Chikahiro Miyake	In "Photosynthesis: Energy from the Sun". pp. 809-812. Springer (Dordrecht). 2008.

2007年(平成19年)口頭発表

	タイトル	研究者	発表先
1	葉緑体形質転換によるフェレドキシンの過剰発現は、光化学系I循環的電子伝達(CEF-PSI)活性を増強し、Non-photochemical quenching (NPQ)を増大させる。	山本宏、加藤秀起、新崎由紀、堀口清華、鹿内利治、長谷俊治、遠藤剛、西岡美典、牧野周、富澤健一、三宅親弘	第48回日本植物生理学会年会
2	Stimulation of Cyclic Electron Flow around Photosystem I (CEF-PSI) by Overexpression of Ferredoxin in Transplastomic Tobacco enhances Non-Photochemical Quenching (NPQ) of Chlorophyll Fluorescence	H. Yamamoto, C. Miyake	Plant Biology & Botany 2007 Joint Congress (Chicago, USA)
3	Overexpression of Ferredoxin in Tobacco Chloroplasts stimulates Cyclic Electron Flow around Photosystem I (CEF-PSI) and enhances Non-Photochemical Quenching (NPQ) of Chl Fluorescence.	H. Yamamoto, C. Miyake	Photosynthesis 2007(Glasgow, Scotland)
4	乾燥条件下で生育させたタバコにおける葉内CO ₂ 拡散コンダクタンスと葉の細胞膜型アクアポリン量との関係	宮沢真一、新崎由紀、吉村智美、前島正義、三宅親弘	第48回植物生理学会年会(松山)
5	葉におけるCO ₂ 拡散抵抗と植物の水利用効率との関係	宮沢真一、新崎由紀、吉村智美、前島正義、三宅親弘	2007年植物学会近畿支部会(大阪)
6	Relationship between mesophyll conductance to CO ₂ diffusion and contents of aquaporin localized at plasma membrane in tobacco plants grown under drought conditions	Shin-Ichi Miyazawa, Satomi Yoshimura, Yuki Shinzaki, Masayoshi Maeshima, Chikahiro Miyake	2007 Photosynthesis Congress in Glasgow
7	主要カロテノイドとしてアスタキサンチンを生産する葉緑体形質転換植物の作出	蓮沼誠久、宮沢真一、吉村智美、三沢典彦、三宅親弘	第21回カロテノイド研究談話会